

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	44	—	事業名	文化・文化財事業	担当部課	くらし文化部生涯学習課
------	----	---	-----	----------	------	-------------

基本情報	総合計画	基本方針	4	文化をみがき、人が輝くまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	4	文化・芸術に親しむ場と機会を充実する	款	9	教育費
		施策の進め方	3	町固有の伝統文化の継承	項	4	社会教育費
	まちづくり 行程表	フラッグ	-		目	6	文化財費
		政策分類	-		大事業	2	文化・文化財事業
	その他(関係法令、要綱等)		文化財保護法、長久手市文化財保護条例				
事業開始の背景、経緯等		文化財を保存し、且つ、その活用を図るため。					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 市民共有の貴重な財産である文化財を保存、継承するとともに、地域の活性化に向けて積極的に活用する。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内に存在する文化財全般。					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 文化財の保存、継承及び活用。					
	事業を構成する事務事業	① 文化財事務事業	拡充	④			
	②		⑤				
	③		⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	決算	予算		21,621	23,802	23,929
決算					19,938	22,368	21,396	
人件費(B)	千円	決算		3,895	5,041	6,074		
総コスト(A)+(B)	千円	決算		23,833	27,409	27,470		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 史跡案内回数	回	目標	-	25	25	25	25
			実績	20	16	26	24	
	B 確認点検回数	回	目標					12
実績								
C		目標						
		実績						

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 郷土史研究会の史跡案内の回数25回を目指す。郷土史研究会の活動実績により、実現可能な数値とした。

B 文化財、史跡地への確認点検回数12回を目指す。定期的に文化財を巡視することを目的とし、月1回の頻度で実施する。

C

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 文化財保護法が改正される見込みであり、文化財の積極的な活用が望まれるようになっている。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 史跡案内については、目標には至らなかったが20回以上の実績であった。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 文化財の保存、継承及び活用の重要性を市民に発信していく必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 文化財の保存、継承及び活用を積極的に推進していく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 継続的に文化財の保存、継承及び活用を積極的に推進していく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		文化・文化財事業										
番号	①	事務事業名	文化財事務事業		款	9	項	4	目	6	大事業	2	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		-		終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 文化財の保存、継承及び活用するための事務事業を実施している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 文化財の保存、継承及び活用。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		21,621 19,938	23,802 22,368	23,929 21,396	38,889
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
① 古戦場公園史跡維持管理工事						15,066	千円
② 警固祭り補助金						2,000	千円
③ 学芸員嘱託員報酬						1,425	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
文化財保護審議会の回数	回	目標 実績	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2
＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞ 文化財の保護及び活用に関し、古戦場公園史跡維持管理工事や警固祭り補助金の交付などを実施し、文化財の保護を図った。また、学芸員嘱託員の採用を進めるなど、文化財の活用を進める体制を整えた。上記について、文化財保護審議会への報告を遅滞なく行った。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

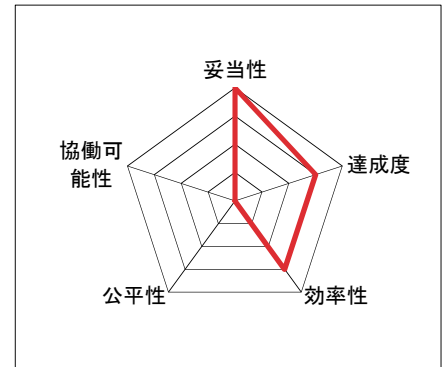
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 文化財保護法が改正される見込みであり、文化財の積極的な活用が望まれるようになっている。

5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞ ※新規行政評価対象 (何をどのような状態に改善したのか) 史跡長久手古戦場保存活用計画を策定し、史跡の保存活用が推進できるようになった。
--

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	-
協働可能性	-



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) 文化財の保存活用のために文化財保護審議会から意見を伺った。
--

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) 文化財保護審議会へ適正な報告ができるよう史跡地の確認・点検をする必要がある。
--

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 文化財の歴史的価値、観光資源としての価値を高め、文化財の保存、継承及び活用を積極的に推進していく。
